

第 19 回加工・業務用野菜産地と実需者との交流会(国産野菜の契約取引マッチング・フェア in 仙台)の概要について

10 月 31 日(水)、標記交流会を宮城県の仙台卸商センター産業見本市会館サンフェスタにおいて開催しました。

1 出展者・来場者

本交流会には、開催地である仙台を中心に、東北地方から 45 事業者・団体が出展するなど、78 の事業者・団体が出展し、約 450 名の来場者と精力的な商談・情報交換が行われました。また、生鮮野菜のみならず、カット野菜やジュース、漬物等の加工品も多く展示され、来場者の注目を集めていました。



- ・ 出展者数 78 (うち、JA 等 11、農業法人等 29、流通業者 9、加工業者 8)
- ・ 来場者数 445 (うち、食品加工・製造業者 56、外食・中食・給食業者 25、小売・流通業者 133)



2 特別商談会コーナー

マッチング成果の向上を図るため、前回開催(2 月 3 日東京開催)より、特別商談会(野菜ビジネス協議会及び青果物カット事業協議会の会員企業等と出展者を結びつける、個別・予約制の商談会)を実施していますが、今回は、実需者 7 者に対し、前回を大幅に上回る 20 の生産者が参加し、延べ 57 件の商談が行われました。

3 マッチング促進セミナー

マッチング促進セミナーでは、(株)カネマサ流通 サプライチェーン部 副部長の南 吉幸氏に「産直型の中間流通からみた市場動向」と題してご講演いただいたところ、立ち見が出る程の盛況ぶりでした。聴講者からは、「中間流通の役割が理解でき、その重要性を再認識できた」等の感想が寄せられ、大変好評でした。



4 試食コーナー

本交流会では、出展者の商品のPRを強化するため、新たに会場内にサラダバー形式の試食コーナーを設置しました。30の出展者により約50品目の「自慢の野菜」が提供されたところ、常に行列のできる盛況ぶりで、出展者からも「出展物のPRにつながった」「サラダを食べながら和やかに商談ができた」等の評価をいただきました。



5 機構業務説明会

当機構で実施している契約野菜安定供給事業等を周知するため、2回に分けて機構の業務説明を行いました。聴講者からは、「野菜の契約事業を知る、良い機会だった」「野菜をめぐる情勢が、短時間でよく理解できた」等の感想が寄せられました。



6 来場者からの交流会に対する主な意見（来場者アンケートから）

良かった点	今後の改善、要望等
<ul style="list-style-type: none"> ・求めていた商品があり、説明も丁寧にしてくれた。 ・新商品のアイデアが思いついた。 ・新たな販路の可能性を感じた。 ・説明が分かりやすく、出展者のやる気を感じた。 ・震災復興に向けての意欲が感じられた。 ・幅広い商品を展示していた。 ・出展者が、サンプルを積極的に勧めており、PR がうまかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城でも毎年開催してほしい。 ・PR ステージを設けて、出展者がプレゼンを行っても良いと思った。 ・各地でこのような交流会が開催されると、各地域の関係者がより参加しやすいと思う。 ・一般的な売れる商品だけではなく、珍しい新商品も提案してほしい。

※第 19 回交流会の開催概要（詳細）については、当機構が発刊している野菜情報 12 月号に掲載しています（機構 HP 上の 野菜>情報誌>月報 野菜情報 2012 年 12 月号 >第 19 回加工・業務用野菜産地と実需者との交流会の概要）。

URL: <http://www.alic.go.jp/>

野菜情報

で検索